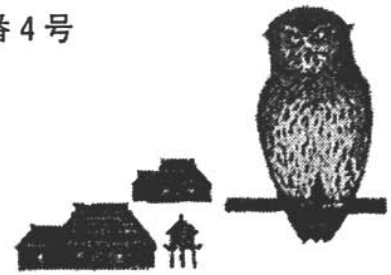


コタンメール

第24号 平成18年2月15日 発行



平成17年度第4回アイヌ文化講座開催



1月21日(土)、放送大学教授ヘンリ スチュアート氏を講師にお招きし、アイヌ文化講座「民族と大地：イオル構想の可能性」と題して講演を行いました。

印象的だったのは「民族」という概念についての説明でした。「民族」は、「国籍」や「人種」と混同されることも多い言葉ですが、スチュアート氏は「ある集団の一員である」という心の問題であるとし、そうした意識を形成する要素として血縁や言語、歴史などが働いている、と説明しました。イオル構想の成功には地域を越えたアイヌの団結が必要であり、そのためには「アイヌ民族とはなにか」を再考し、理論武装する必要がある、と述べました。

また、マイノリティー(少数者)の運動の成否は、マジョリティー(多数者)の意向がカギであり、社会全体を巻き込んでの展開が必要だと指摘しました。(北原次郎太)

3月 アイヌ民族博物館開催事業のご案内

アイヌの食文化講座

- ・3月11日(土) 10:00~13:00 テーマ:「伝統食材を使おう」
- ・3月12日(日) 10:00~13:00 テーマ:「お茶と薬編」

※ 参加費は無料です。エプロンをご持参ください。

場所はアイヌ民族博物館 体験学習館です。1講座のみの参加も可能です。

アイヌ文化講座

○3月11日(土) 13:00 開場 13:30 開始 1時間半~2時間程度 映像展示室(1F)

演題:「近代北海道の土地制度(仮)」

講師:山田 伸一 氏 北海道開拓記念館学芸第三課学芸員

主著『アイヌ民族近代の記録』(共編、草風館) ほか論考多数

参加ご希望の方は、博物館 学芸課 TEL 0144-82-4199 まで事前にご連絡ください。

へまた・てまな

へまた＝なに、てまな＝どのように…樺太方言

鉄のムックル

アイヌの楽器ムックル。この名前にピンと来る人はけっこう多いでしょう。竹でできた、ベンベンビヨンビヨンという、あれです。では、鉄製のムックルのことはご存知でしょうか。

ムックルのようなタイプの楽器を口琴と呼びます。口琴は世界中にある楽器で、竹や木で作るものと金属製のものがあります。

江戸時代以降の記録を見ますと、鉄製の口琴は北海道よりも樺太での使用例が多く、大陸から伝えられたものと意識されていたようです。樺太ライチシでは、鉄製の口琴をカーニムクン「金属の口琴」と呼びます。18世紀の末頃、松前から津軽に伝わり、1823年ころ江戸でもブームが起きました。また、さいたま市の氷川神社付近から、平安期のものと見られる口琴によく似た鉄製品が出土しており、古い時代にも何度か口琴ブームが起こっていたと考えられています。

さて、ではこの口琴はいつ頃どうやってアイヌに伝わったのでしょうか。北海道の東部に伝わっていた鉄製口琴の由来話を、2つ紹介します。吉田巖さんという方が、釧路と帯広で聞き取ったものです。ストーリーは少し違いますが、どちらもザリガニと関係しているところが興味深いですね。文中のアイヌ語表記は原文のまま、現代文に直して要約・補注して紹介します。

①釧路春採のサヌキマチさんというお婆さんが、1920(大正9)年1月27日に語ったオイナです(※1)。

「兄妹が川へ魚とりに行き、兄がカニムックル(鉄製口琴)をもったテクンベコロカムイ(ザリガニ)をとった。カニムックルを妹にやってテクンベコロカムイを川に放した。又船に乗って海に出たとき、海から三味線をもったアムパヤヤ(タラバガニ)を捕った。兄は、妹に三味線を渡してアムパヤヤを海に放した。カニムックルや三味線はこれからアイヌに伝わったものだ。元来三味線、カニムックルはオタスツのカムイカラペ(神の造ったもの=神宝)だということである。」

②帯広伏古の谷口与作さん(尋常小学校4年生)が祖母谷口ヨネさん(61才)からアイヌ語で聞いたものです。1920(大正9)年10月13日に記録されました(※2)。

「昔、一人の獵師が熊狩に行った。狩小屋に泊まっていると、沢の方から面白い妙な音がする。沢の方へ行って見ると、一人の美しい女の人が井戸端に座り、手に持った何かを鳴らしていたのだった。珍しく思った獵師は、女の人を驚かせてみたところ、女は驚きのあまり井戸の中に落ちてしまった。女の人が落としたものをひろって見るとカニムックルであった。その夜、獵師の夢に屋間の女の人があらわれてこういった。「私はザリガニです。私が金のムックルでばかり遊ぶのを両親に叱られていたのですが、どうしてもやめられず、とうとう勘当されてしまいました。それで井戸のところで鳴らしていた所に、あなたが来て私のものをとっていかれた。おかげで私はカニムックルを諦められ、父母に対しても申訳がたつのでうれしくてなりません」といった。ムックルは元々こうしたわけでアイヌに伝わったものであるという。

※1 吉田巖「吹雪の土産 古老談話記録 くしろ 厚岸・春採・白糠」『愛郷往来 東北北海道アイヌ古事風土記資料』帯広市社会教育叢書No.5、帯広市教育委員会(1959)p19。

※2 吉田巖『愛郷資料 東北北海道アイヌ古事風土記資料』帯広市社会教育叢書No.1、帯広市教育委員会(1955) p111。

(北原次郎太)